

おおかめのきの鹿角枝

上木の落葉後に、また雪が解けて開葉までの間、林床を歩くと、丈の低いかん木のうちで、枝を水平に広く張ったものが目につく。よく見ると、枝は細くて暗紫色を呈し、小枝がいずれも1列に並び、斜上して短い。そして、小枝の分岐点（節）ごとに弧を描き、全体として鹿の角の形状を呈している。そのため、落葉期で、しかも冬芽を見なくても、この枝ぶりを眺めただけで、「ああ、あの木だ」ということになる。上木が開葉して陽光をさえぎる直前に、オオカメノキは特徴ある厚手の葉を開き、白花を咲かせる。

（道北分場 斎藤新一郎）

